

本模擬問題における問題等の著作権はすべて東京CPA会計学院に帰属します。無断転載・二次利用は固く禁止いたします。

第4問 (20点)

C P A工場では、工程の始点で投入した原料を加工して製品Aを製造している。次の [資料] にもとづいて、答案用紙の各勘定に適切な金額を記入しなさい。なお、C P A工場では標準原価計算制度を採用し、パーシャル・プランによって勘定記入を行っている。製品Aの標準原価カードは次のとおりである。

原料費	標準単価	150 円/kg	標準消費量	2 kg	300 円
加工費	標準配賦率	300 円/時間	標準直接作業時間	4 時間	1,200 円
製品A 1 個当たり標準製造原価					<u>1,500 円</u>

[資料]

- (1) 原料 2,300kg を 1 kg 当たり 160 円で掛仕入した。なお、実際原価で材料勘定に記入する。
- (2) 原料の実際消費量は 2,050kg であった。原料の消費額については、製品の生産実態にもとづき、月末に一括して仕掛品勘定に振り替え、原価差異を把握する。
- (3) 原料の月末在庫は 250kg であった。月初在庫はなかった。
- (4) 加工費の実際発生額は 1,192,800 円である。
- (5) 製品Aの生産実績は次のとおりである。

月初仕掛品	180 個	(加工進捗度 60%)
当月投入	<u>1,000</u>	
合計	1,180 個	
月末仕掛品	<u>130</u>	(加工進捗度 40%)
当月完成品	<u>1,050</u>	個

**第 5 問 (20 点)**

山口工業は、同一工程で等級製品 X、Y、Z を連続生産している。製品原価の計算方法は、1 か月の完成品総合原価を製品 1 個当たりの重量によって定められた等価係数に完成量を乗じた積数の比で各等級製品に按分する方法を採用している。次の [資料] にもとづいて、答案用紙の各項目の金額を計算しなさい。なお、月末仕掛品の評価方法には先入先出法を用い、正常仕損の処理は度外視法によること。計算上生じる端数は、端数処理せずそのまま解答すること。

**[資料]**

1. 生産データ

月初仕掛品	120 個 (60%)	正常仕損	80 個
当月投入	1,300 個	月末仕掛品	300 個 (40%)
	1,420 個	完成品 X	600 個
		Y	200 個
		Z	240 個
			1,420 個

(注) ( ) 内は加工進捗度を示している。なお、工程の始点で材料を投入し、工程の途中で仕損 (評価額は 1 個当たり 500 円、その価値は材料に依存する) が発生した。

2. 原価データ

月初仕掛品原価		当月投入原価	
直接材料費	61,200 円	直接材料費	674,400 円
加工費	21,000 円	加工費	326,400 円
	82,200 円		1,000,800 円

3. 製品 1 個当たりの重量

X	Y	Z
2,200g/個	1,960g/個	1,200g/個